

都立戸山&お茶高による理系女子育成連携プロジェクト「女性研究者にインタビューしてみよう」は、両校の生徒が協力して女性研究者にインタビューし、そこで得たものをまとめ、全校生徒に向けて発信するプロジェクトです。ここでは1年生6名が2025年8月17日、日本大学の鈴木チセ教授にインタビューした内容をご紹介します。

## 【鈴木チセ先生について】

東京大学大学院卒業 博士(農学)

大学院では、菜の花のめしふの先端にあるタンパク質について研究をされました。

農林水産省入省、のちに国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構に所属。

2021年より日本大学生物資源科学部食品開発学科の教授を務められています。

## 【先生のお話から】

### Q. 研究内容やテーマについて教えてください。

A. 微生物間の相互作用に関する研究を行っています。味噌の微生物に関する研究の一環として、塩分の高い条件下で他の菌を殺す菌についても研究しています。タンパク質に興味を持っており、タンパク質化学に関する研究も多く行ってきました。私の研究では、面白さを重視しています。また、型にはまらないことや、一つの研究を突き詰めること、情報の正確性も大切にしています。困難に直面したときには、一人で悩み過ぎずに、適切な人に協力をお願いすることも大切ですね。だからこそ、研究仲間を増やすことは意識しています。

### Q. 女性研究者としての苦労などはありますか。

A. 公務員時代には、男女差別などを感じることはあまりありませんでした。女性研究者が少なく母数が少ないと仕事を任せられることは多い印象ですね。「男性研究者」という言葉はあまり使われていないのに、「女性研究者」という言葉が使われることに、違和感を覚えます。

### Q. 研究者になろうと志したきっかけと、研究を続けるモチベーションについて教えてください。

A. 私は、大学院での修士課程2年間で、研究を本格的に取り組み始めました。自分の興味のある分野を研究すること、面白いと思う事柄を追求することがモチベーションになっています。社会貢献や研究の実現性を短絡的に意識するのではなく、自分の興味を追求することが、とても重要だと考えています。

### Q. 研究を続ける上で大変だったことはありますか。

A. 大腸菌に遺伝子を入れる研究では、うまくいかない経験が多くありましたね。研究は、意外とうまくいかないことが多いですが、失敗も含めて、型にはまらない発想や突き詰める姿勢が重要だと思います。また、一人でプロジェクトを進めた経験もありますが、とても大変だったことを覚えています。一緒に研究する仲間の存在は大事ですね。

### **【先生から生徒へのアドバイス】**

・国際的な視野を広げるために、**英語の勉強は大切だと思います。**  
・生徒の皆さんのが研究をするときには、型にはまらず、**情報が確かなものかを調べながら、突き詰めることが大切です。**また、研究仲間を増やし、**適切に協力を得ることも、学生のうちに経験しておくべきです。**私は、大学教員になって色々な科目で外部の先生をお呼びすることがありますが、そのほとんどを高校時代の後輩にお願いしています。専門の近い大学の同級生と違って、高校時代の友人や先輩、後輩は幅広い分野で活躍しています。私は、それぞれの活躍を学生さんたちにも知ってもらいたいために、外部の先生としてお呼びすることが多いです。研究仲間だけでなく、高校の先輩後輩との深い絆を作つておくことも大切ですね。

### **【インタビューをした生徒の感想から一部抜粋】**

今回のプロジェクトで、多くの研究の場でご活躍されてきた先生のお話を聞けたことは、とても貴重な経験となりました。また、「面白さ」に重点を置いて研究を進める姿勢は、より深く充実した研究を継続的に行う上で欠かせないことだと思いました。私自身も、型にとらわれず、多様な視点から考え続けることを大切にしていきたいです。(お茶高 K.T)

お話を伺い、失敗がありつつも、その大変な経験を活かし、興味を持ったこと、面白そうなことを突き詰めていく先生の研究への姿勢がとても印象的でした。また、社会の考え方を鵜呑みにするのではなく、柔軟な発想を持つことの大切さを学びました。私自身も、より仲間を大切にしていくつつ、多角的な視点で情報などをとらえていきたいと思います。(戸山高校 H.E)

1人の研究者として、苦労や失敗も受け止めながら、前向きに進んでいく先生の姿に感銘を受けました。また、先生のお話から、固定概念を打ち破り、柔軟な考え方で生活していくことが大切だと気づきました。私も、これからは人脈を大切にしていきながら、様々な角度で物事を見つめ直すことを大切にしていきたいです。(お茶高 A.O)

先生が働くなかで、女性だからという理由で差別を感じたことは無いと聞き、少し意外に感じました。研究者という仕事はまだまだ男性社会であると聞くことが多かったので、驚くと共に、女性でも差別されずに働ける環境があるのだなと安心しました。一方で、「男性研究者」という言葉は使われないので「女性研究者」という言葉が使われている点には、私も違和感を覚えました。性別ではなく、その人の能力や情熱に目を向ける人が増えるといいなと感じました。(お茶高 M.H)

### **【まとめ】《研究で大切な3つのこと》**

- ① 自分が面白いと思うものを追究する。**
- ② 型にはまらず、一つのテーマを突き詰める。**
- ③ 一人で悩み過ぎず、適切な人に協力を要請する。**

鈴木先生をはじめ記事執筆にご協力いただいた方に感謝いたします。ありがとうございました。